

報道関係者各位

平成 22 年 9 月 7 日
社団法人日本助産師会 会長 加藤 尚美

「ホメオパシー」に関する調査結果の公表について

日本助産師会は、8 月 24 日に公表された日本学術会議会長談話に全面的に賛成し、8 月 26 日、ホメオパシーを医療に代わる方法として助産師が助産業務として使用したり、勧めたりすることのないよう、見解を発表したところです。

本会では、この見解発表以前に、山口県で乳児がビタミンK欠乏性出血症により死亡したとの訴提起の事実を受け、都道府県支部を対象に、支部内における分娩を取り扱うすべての開業助産師について、ビタミンK2シロップ投与とホメオパシーの使用に関する実態調査を実施し、別添のとおり取りまとめました。

平成 22 年 8 月末現在、本会会員で分娩を取り扱う開業助産所 433 か所（有床 266 か所、無床 167 か所）のうち分娩業務を休止している 19 か所を除いた 414 か所から回答がありました。ビタミンK2シロップの投与に関しては、414 か所の全助産所が実施しており、過去 2 年以内でホメオパシーのレメディを投与しビタミンK2シロップを投与しなかったケースを取り扱ったことがあると回答した助産所は 36 か所ありました。投与しなかった主な理由は、薬剤拒否の妊婦からの強い希望があったこと、ビタミンK2シロップとホメオパシーのレメディと両方の説明を行い妊婦の選択によりレメディのみの投与になった等でした。

36 か所の全助産所に今後もホメオパシーのレメディをビタミンK2シロップの代用として使用しないよう個別に指導いたしました。

本会としては、助産師がホメオパシーを医療に代わるものとして使用したり、勧めたりすることのないよう、継続的な指導や研修を実施し、会員への周知徹底を図ります。

連絡先 社団法人日本助産師会事務局 岡本・市川 電話 03-3866-3054
--

「ホメオパシー」に関する調査結果

社団法人日本助産師会

1 調査方法

- (1) 平成 22 年 7 月 31 日に、47 支部に対し、支部長を通して 8 月下旬を目途に支部内の助産所についての報告を求めた。
- (2) 調査結果が全数揃っていない支部や、追加情報が必要な助産所については、電話での聞き取り調査を行った。

2 調査項目

- (1) ビタミン K2 シロップ投与の有無について
- (2) 過去 2 年以内にホメオパシーのレメディを投与してビタミン K2 を投与しなかったケースを取り扱ったことの有無について

3 調査結果

- (1) 助産所 433 か所（有床 266 か所、無床 167 か所）のうち、414 か所から回答を得た。無回答の 19 か所は分娩休止中の助産所である。
- (2) 調査時点において、ビタミン K2 シロップはすべての助産所で投与していた。
- (3) 過去 2 年以内にホメオパシーのレメディを投与してビタミン K2 を投与しなかったケースを取り扱ったことがある者は 36 か所であった。

その主な理由は以下である。

- ①薬剤拒否の妊婦にどうしてもと頼まれてビタミン k2 を投与しなかった。
- ②ホメオパシーを学んでいる妊婦からの希望があり、小児科医より危険性の説明を受け、小児科医了解のもとビタミン K2 を投与しなかった。
- ③ビタミン K2 シロップとホメオパシーのレメディと両方の説明を行い、妊婦の選択によりレメディのみの投与を行った。

4 対応

- (1) 現時点で、ホメオパシーのレメディを投与してビタミン K2 を投与しなかった生後 2 か月以内の乳児については、分娩を取り扱った助産所に対し、ビタミン K2 シロップを投与するよう指導した。
- (2) ホメオパシーのレメディを投与してビタミン K2 を投与しないことのないよう、各支部の安全対策委員等による支部内全助産所への個別指導を徹底する。
- (3) 安全対策に関する研修を実施する。
- (4) 全会員への周知徹底を図る。

表 ビタミン K2 シロップ等の投与について

調査項目	助産所数	
	投与している	投与していない
ビタミン K2 シロップを投与しているか。	414	0
過去 2 年以内にホメオパシーのレメディを投与してビタミン K2 を投与しなかったケースを取り扱ったことがあるか	取り扱ったことがある	取り扱ったことはない
	36	378